

報告テーマ：繊維産業におけるSDGSの取り組み

主な出所：繊維業界紙「繊維ニュース」

経済産業省資料

担当：高城

I. 政府、業界団体、企業の取り組み

<経産省>

2021年11月30日製造産業局がリモート説明会 その骨子を報告

国際公約

1997年京都議定書 CO2を2020年に1990年比6%削減

2015年パリ協定 CO2を2030年に2013年比26%削減

2021年11月COP26 CO2を2030年に2013年比46%削減

国内体制

2019年「パリ協定にもとづく成長戦略としての長期戦略」を閣議決定

2020年3月欧州委員会が「サーキュラーエコノミーアクションプラン」を発表し重点対策分野の1つに繊維が指定される

2020年5月 経産省が「循環経済ビジョン2020」においても繊維が指定される

2021年2月 「繊維産業のサステナビリティに関する検討会」設置

委員8人、オブザーバー3人で構成

2021年7月に取りまとめ

繊維業界の課題

1. 染色業界でCO2排出量が多いこと、水の使用量が多いこと
2. 過剰生産体質（衣料品供給点数 約29億点、うち15億点が売れ残る）
 - ・生産期間が長い（季節性があるので備蓄生産）→値引き販売の常態化→低価格化
 - ・欠品を避ける商習慣（全体としては大量供給）
3. 衣料品の店頭回収
4. 消費者の意識改革
5. 認証スキーム

対策

- ・適量生産、適量供給を目指すこと・・・AI等デジタル技術の活用、受注生産の拡大
- ・環境設計・・・CO2の排出量が少ない設計、リサイクル材料の利用拡大

梱包材にリサイクル材料を、製品寿命の最大化、分解を考慮した設計

*人権問題に絡む課題

新疆ウイグル自治区の人権問題

<環境省 SDGS活用のメリット>

- ① 企業イメージの向上（この会社は信用できる、この会社に入りたい）

- ② 社会の課題への対応（様々な社会の課題が網羅されており、社会のニーズが詰まっている）
- ③ 生存戦略になる（SDGSへの取り組みが国際的な取引条件になる可能性）
- ④ 新たな事業機会の創出

<金融業界も同一步調>銀行、証券、保険

E S G投資の拡大（非財務情報）E S Gを重視した経営の方が長期的な成長が期待できる

2006年にアナン事務総長が機関投資家に対し E S Gを投資プロセスに組み入れる「責任

投資原則」を提唱、2008年のリーマンショックを通じて資本市場の短期的な利潤追求を批判

*経済界共通の認識として 「企業価値向上のためにSDGSやCSRは欠かせない」

<業界・個別企業の取り組み>

染色業界

- ・あらゆる染工場がサステナブルに取り組んでいる。
- ・グループ全体でCO2排出量を20%削減する（ソトー）
- ・低浴比タイプの染色機の導入（お湯の削減）
新設備は1台で複数の工程ができるので時間短縮になる（想定外効果）
- ・脱炭素経営の宣言
バイオマスボイラー

紡績業界

大量生産、大量廃棄といった供給構造の是正と強制労働の排除について業界全体で取り組む

化学繊維業界

大量生産、大量消費への課題、価値観、ニーズの多様化などにより経営環境は大きく変化。

「持続可能な社会の実現への貢献」と「競争力の基盤維持・強化」の2つの課題に直面

YKK

日本の削減目標46%以上を支持。

「YKKサステナビリティー2050」を掲げる

気候、資源、水、化学物質、人権の5つのテーマで目標設定・・・経営者の意識が高い

環境配慮型のメッキ技術を開発（薬品を使わない）

シアン、クロムなどの有害物質を100%削減

温室効果ガス96% 水使用66%、消費電力69%いずれも削減

ミズノ

1991年から「クルー21プロジェクト」に取り組む。

当面温室効果ガスを30%削減の目標。そのために製造工程を抜本的に見直す。また、環境配慮型素材への転換

東レ

環境経営の徹底、グリーンイノベーションプロジェクトで1兆円の売り上げ目標

2021年4月に社長直轄の「サステナビリティ委員会」発足

ユニチカ

サステナブル推進プロジェクト

リサイクルしやすい製品企画（回収、繊維に戻す）

日鉄物産

在庫を積まずに必要なものを必要な分だけ作るという仕組みをしっかりと構築する。

そのために製造の可視化を進める。原料の仕入れから出荷に至るまで工程ごとに生産状況を把握

小松精練（現小松マテーレ）

1999年 小松精練環境経営宣言

2016～2000年 CO2を05年比10%削減、廃棄物量80%削減

2021年 CO2を13年比30%削減、人権保護項目

社長が環境管理責任者

靴下のヤマヤ

近くの高田川の生態系の保全に向けた取り組み

ゴミ拾い、草刈 本社工屋に太陽光パネル 35年には使用電力を100%自家発電に

JUKI

2020年4月 SDGS推進室設立 マテリアリティーマップ作製

環境負荷の低減、雇用機会の創出、様々な人材の社会参画推進、衣料廃棄ロス削減

17項目にチャレンジ

STジャパン

日本の繊維製造中小企業がSDGS達成するための支援組織 産地や業態の枠を超えて

II. 流通段階別取り組み

現場ベースで様々な取り組みが行われている。中にはコスト無視も

- D-1
 - ・製品のリサイクルショップ、メルカリ
 - ・流通ハンガーの再利用（小売りでハンガー取り換え、2億本が焼却 検品清掃）
- A-2
 - ・紡糸くずの再利用（合繊メーカー） 裁断くずを紡績糸に（クラボウ）
 - ・同様の仕組みを今治タオル、奈良靴下、播州産地などでも
 - ・裁断くずをインディゴ染めし再生デニムを（クラボウ、スパンデックスなどを除去）
 - ・広い業種から廃棄衣料を集め原料に戻す（日本環境設計）
- B-2
 - ・裁断くずを雑貨に
 - ・不要になった生地や縫製品を糸くずにして断熱材、防音材、クッション材に
 - ・得意先で不要になった生地や製品を糸にして供給（新内外綿）
 - ・消費者から古着を回収し、糸・生地をつくりアパレルメーカーに供給（三井物産アイ）
- D-2
 - ・羽毛布団の下取り
 - ・ダウンジャケットの下取り（スノーピーク、イオンモール、好日山荘、生協、ikka 等）
 - ・グリーンダウンプロジェクト（障害者雇用）
 - ・廃棄品の圧縮（見込み発注の見直し、短納期対策）
廃棄繊維は年間200万tあり そのうち75%が焼却
 - ・同業他社品の相互利用（自前主義から脱却）
 - ・格外品の利用
 - ・縫製品の補修事業
- A-3
 - ・ペットボトルからポリエステル糸（各合繊メーカー）
 - ・ナイロン漁網をナイロン糸に
 - ・ダウンの再利用の仕組み（東洋羽毛工業）
 - ・レンチング（テンセルメーカー）は廃棄衣料を集めてパルプを（2万5千t）
 - ・学生服などの毛製品を綿に戻しフェルトを作り車の内装材などに（ニッケなど）
- B-3
 - ・海岸に漂着したペットボトルを回収しポリエステル糸に（豊島）
自治体や学校と連携し海岸の美化運動に
 - ・岡山のデニムメーカーがデニム製品を回収し、綿に戻して新規にデニムを
昨年実績 3883着 日本各地に100のパートナー（回収）
- D-3
 - ・ハンガーを石油系プラスチックからセルロース系プラに
 - ・ナイキが鹿島アントラーズのユニフォーム、サポーターレプリカをPET再生糸に
 - ・シャツ用ニット生地の裁断くず（3～40%発生 1社あたり7～8万の廃棄費用）
綿→糸→ニット生地→Tシャツ
- A-4
 - ・合繊糸に薬剤を混ぜ生分解性を付与
 - ・植物由来の原料を開発（米ぬか、サトウキビ、サトウキビ木材の廃棄蜜、木材など）
ポリエステルはTPAとEGから作られるがいずれもエタノール原料（詳細レポ）

- ・有機栽培の綿花
- ・廃棄されるバナナの茎を原料としてバナナ繊維を（吉田染工）
- ・パルプ原料の多様化（アセテート用 三菱レイヨン）
- B－4 ・高強力糸を使った靴下 2000円で穴あき無償交換
- C－4 ・水を使わない染色
- ・シャツの黄ばみを抑え長く使えるシャツ
- ・バイオマスボイラー
- D－4 ・環境設計（廃棄を前提とした被覆設計）
- ・EFウェア（扇風機）や熱線ウェア
- ・陳列用ハンガーをセルロース系プラに（コットンパルプや精製木材に）
- ・包装用フィルムにサトウキビ由来のポリエチレンを
- ・抗ウィルスカーテン（住之江では昨対2.5倍に）
- ・廃棄衣料を原料にした文具（コクヨ）
- 廃棄繊維を色別にアップサイクルする仕組み それを利用してノートカバー、
ツールポーチ、メモカバー
- ・和紙繊維製の裁断端材を畑の肥料に（3－6か月で分解）白菜などを栽培

Ⅲ. 課題

- ① 適正なリサイクルのための認証制度
- ② トレーサビリティの確保
- ③ 繊維リサイクル法の整備（経産省は未整備を認める）
- ④ 三菱ケミカルが環境負荷度を数値化する提案
- ⑤ ペットボトルから繊維を作ることは本当にエコか？
- ⑥ コスト高の問題、消費者は許容するのか
- ⑦ 本物のエコと見せかけのエコが混在
- ⑧ 口先だけのエコ政策（日鉄物産）
- ⑨ この流れは今後どうなるか 経営者は本気か この流れは誰が選択するのか
- ⑩ 環境科としては環境問題に対してどう取り組んでゆくのか。

<参考資料：環境用語>

SDGs：Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標

CSR：Corporate Social Responsibility 企業の社会的責任

3R：Reuse、Reduce、Recycle

ESG投資：Environmental Social Governance 環境社会配慮投資

COP：気候変動枠組条約締結国会議

DX：Digital Transformation 進化した技術を浸透させ生活をよりよいものにする

